

キャベツ

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地栽培	[]		[]					○	◎	[]		
			[]						○	◎		

冷涼な気候を好み、寒さには極めて強いのですが、暑さには弱く、真夏には長野県などの高冷地で品質の良いものが作られています。

外葉によく陽があたることが大切ですから、陽当たりのよい場所で作りましょう。乾きすぎはいけません。

最近は品種改良が進み、年間を通じて栽培している産地もあります。

たねまき

10 a 当たりの種の量は60~80mlですが、栽培する時期により、多少増減します。幅120cmのうねを作り、十分に灌水して、横型（条間）に5cm間隔の条にたねをまき、その上に土を5mmぐらいかけます。

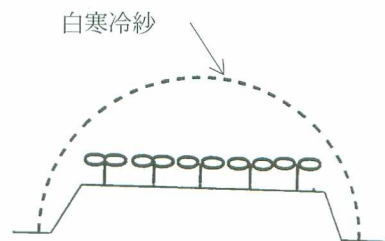
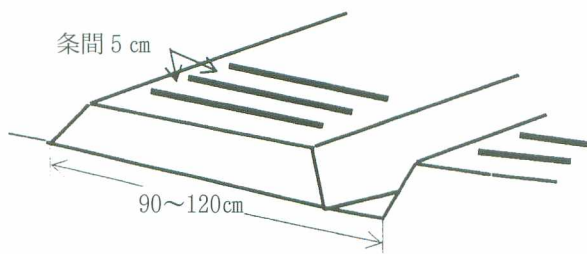
1 m² 当たりに10mlのたねをまきます。

栽培の面積が少ない場合には、育苗箱などを利用すると良いでしょう。

たねまき後、乾燥しないように稲わらや新聞紙等をかけます。

3日くらいで発芽します。発芽したら覆いを取り除き、白寒冷紗をかけます。

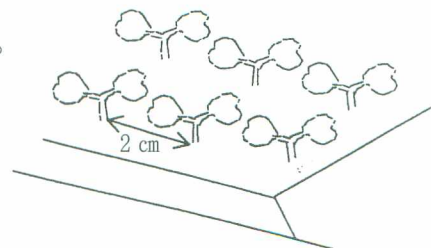
寒冷紗は、防暑、防寒、防虫の他に台風や大雨対策にもなります。



間引き

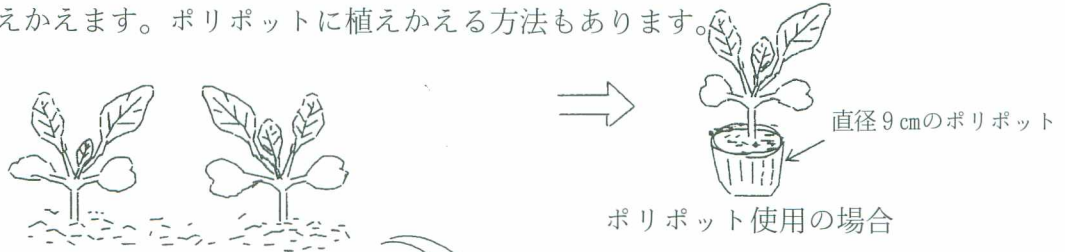
発芽が揃った頃から、1~2回に分けて間引きをします。間引くのは、葉の変形した苗や双葉の中央が褐色のものです。

また、混んでいる所の苗も間引きを行い、光線が十分に当たるようにして、苗が伸びすぎないようにします。



植えかえ

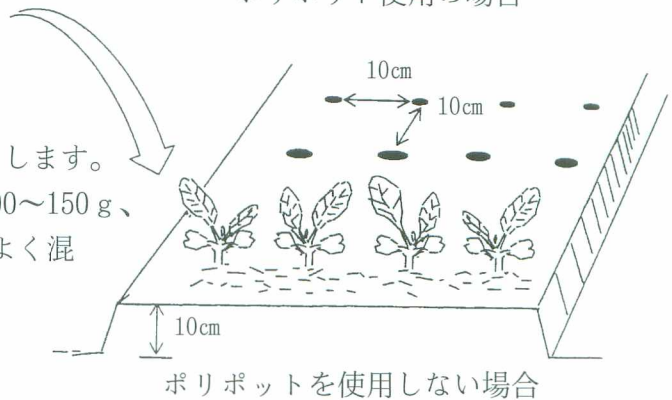
植えつける2週間前に苦土石灰、化成肥料、堆肥を施し、よく耕した場所に本葉2～3枚の苗を10cm間隔に植えかえます。ポリポットに植えかえる方法もあります。



定植準備

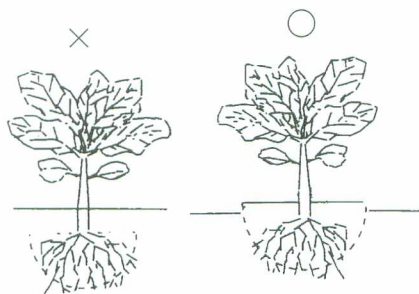
定植はたねまき後35～45日くらいのときにします。

定植する2週間前に1㎡当たり苦土石灰100～150g、化成肥料100gを全面に散布して、深く土によく混ぜ込んでおきます。

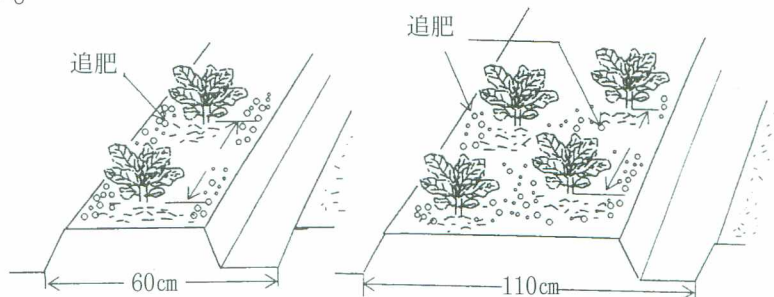


植えつけ

排水の悪い所では、必ず高うねにすることが大切です。本葉5～6枚のがっちりした苗を植えます。深植えをすると、新根が出にくくて活着が遅れるので注意しましょう。植え付けには、1条植えと2条植えの方法があります。



苗の植えつけ方



1条植えの場合

2条植えの場合

追肥

生育状況を見ながら、化成肥料を1株当たり1握り程度施します。

収穫

球の頭を押さえてみて、硬く締まってきたものから順次収穫します。

結球部の頭を片手で押さえ、球のつけ根を包丁で切ります。

コメント

キャベツはビタミンCが多く、緑色の濃い外葉にはカロチンも含まれています。漬け物、和食、中華、洋食の食材として幅広く用いられる野菜ですので、ぜひ作ってみましょう。